

「土砂災害防止について考えたこと」

三重県 四日市市立西笹川中学校 2年

私はこれまでに土砂災害を体験したことはありません。でも毎年のように大雨や警報が出ているので、もし自分の町で起きたらどうなるだろうと考えることがあります。ニュースなどで土砂が家押し流したり、人が巻き込まれたりする様子を見たことがあります。そのたびに「もし自分の町で起きたらどうなるのだろう」と考え、土砂災害防止について考えることはとても大切だと思いました。

土砂災害は大雨によって山の土がゆるみ、急に崩れ落ちることで起きます。一度に大量の土や石が流れてくるため、家や道路が壊れたり、人の命が奪われたりします。だから「災害が起きてから」ではなく、「起きる前にどう防ぐか」を考えておく必要があると思います。

そのためには、まず自分の町の危険な場所を知ることが大事です。

私の町には山や川があります。普段は静かですが、大雨が降ると水かさが増えたり、斜面がゆるんだりして、土砂災害の危険が高まります。たとえば、家の近くの坂道や川沿いの道、公園の小さな斜面なども、大雨が続くと土や石が流れ出すかもしれません。私は以前、大雨の日に川の水が茶色く濁って流れているのを見て、とても恐ろしいと思ったことがあります。もしそのとき土砂が崩れていたら、自分や家族も危険だったのかもしれないと考え、普段から注意することの大切さを感じます。

土砂災害を防ぐためには、まず自分の町の危険な場所を知ることが必要です。ハザードマップを家族で見ながら、避難場所や避難経路を確認しておく、いざというときに慌てずに行動できます。また、大雨が降ったときに「まだ大丈夫」と思わず、早めに避難することも重要です。避難が遅れると、危険な場所に近づいてしまうかもしれません。私はこれから、大雨の日には川や斜面には近づかず、安全な場所に避難することを心がけたいです。

さらに、日ごろからできる防止の工夫もあります。家の周りの排水溝を掃除したり、落ち葉や小石を取り除いたりすること、斜面や道路にゴミを置かないようにすることは、小さなことでも積み重ねれば被害を減らす力になります。学校や地域で行われる清掃活動や整備活動に参加することも、土砂災害を防ぐ大切な方法だと思います。私はできる範囲で参加したいと考えています。

また、土砂災害を防ぐためには、地域の協力も欠かせません。小さな子どもやお年寄り、体の不自由な人は、一人で避難するのが難しい場合があります。そういう人を助けたり声をかけあったりすることで、多くの命を守ることができます。私も将来、大人になったら、困っている人を助けられるようになりたいと思います。

土砂災害は特別な場所だけで起こるわけではなく、私たちの町でも起こり得ます。体験してなくても、考え、備えることで被害を減らすことができます。自然の力はとても大きく、人間の力だけでは防ぎきれないこともあります。日ごろから意識して行動すれば守れる命は必ずあります。私はこれからも、災害を「自分には関係ないこと」と思わず、土砂災害防止について考え、行動していきたいです。

さらに、私は災害を防ぐには知識を増やすことも大切だと思います。土砂災害がどういう条件で起きるのか、その場所が危険なのか、どのタイミングで避難すべきなのかを知ることで、行動に迷わず、危険を避けることができます。学校の授業や図書館、インターネットで調べることが、防止につながると感じます。知識を持っているだけでも、被害を減らす力になります。

私はこれから、大雨のときには安全な場所に早めに避難すること、家族や地域の人と助け合うことを忘れずに行動したいです。自分だけでなく、周りの人の命も守る気持ちを持つことが、防止につながると感じます。土砂災害は怖いものですが、日ごろから考え、準備することで、少しでも安全に過ごせるはず。私はこれからも、土砂災害防止について意識して行動し続けたいです。